

【もっと多くの実を結ぶ為に】

名前 _____

【聖書箇所】 ヨハネ 15 章1～17 節

15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。15:6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。…

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。15:13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。15:16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。

●ヨハネの福音書と十字架の前夜

ヨハネの福音書のほとんどは、主イエスの人生 33 年半のうちの、公生涯 3 年半を中心に記している。その中でも、主イエスの十字架の前夜、最後の晩餐から始まる遺言の説教(13 章～17 章)は、約 3～6 時間の為に、全体の約 1/4 をもさいて記している。

1: 多くの実を結ぶために、「愛」に生きる者となろう

ヨハネの福音書 13 章～17 章には、「愛」という言葉が実に 34 回も記されおり、中心テーマは「愛」である。それゆえ、ぶどうの木と枝の譬えがあらわす実とは、まず第 1 に愛である。さらに、実を結ぶという概念を用いながら、中盤では「祈り」に(15:7)、後半では「伝道」(15:16)へと用いている。

そして、祈りと、伝道の実をはさむように、「主イエスが愛されたように互いに愛し合うように」(15:12、17)との戒めが繰り返されている。

つまり、「祈りの実」も、「伝道の実」も、まず身近にいる家族、兄弟姉妹を愛し、愛を動機として人々の為に祈り、福音が伝えられる時に、より多くの実を結ぶという事である。

私達は愛の源である神に、主イエスのように愛する愛を求め続け、身近にいる兄弟姉妹、家族に愛の心で仕え、祈り、福音を伝える者となろう。

【適応①】 たえず愛を動機として、祈り、語り、行動しよう。

【適応②】 主イエスのように愛する「愛」が与えられるように毎日祈ろう。

メモ

2: 多くの実を結ぶために、主との「交わり」を深めよう

多くの実(愛、祈り、救い)の実を結ぶ為に、私達がすべき事は、ただ1つ幹である主イエスにしっかり結びつく事である。

主に結びつくとは具体的には、まず第1に主との交わりを持つ(第1コリ 5:17)ことである。祈りと御言葉を通して、主と交われれば交わるほど私達は主に結びあわされる(信仰が強められる)のである。又、親しい主との交わりの中で、主は必要な御言葉を与え、御心を教えて下さる。

主との交わりの中で教えられた主の言葉、御心にそって、祈り、行動していく時に、豊かな祈りの実を結ぶのである。過去、現代の聖徒達、何よりも主イエスご自身も、神との交わりの中で主の言葉、主の御心が教えられ、その事を祈り求め、実践する中で、豊かな実を結んできた。

私達は、日ごとに主との親しい交わりを大切にし、その中で示された事を心に深く刻み、祈り求め、実行する者となろう。



【適応①】 御言葉を通して主が私に語りかけて下さると期待して聞こう

【適応②】 教えられた御言葉に具体的に従っていこう

メモ

参)◇過去の聖徒(聖書)

ノア、アブラハム、モーセ、ヨシュア、サムエル、ダビデ、イザヤ、...

◇主イエスご自身

「父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。」15:15

3: 「もっと」多くの実を結ぶために、剪定される事を覚えよう

主イエスは、私達がより多くの実を結ぶ事を期待しておられる。それゆえに、剪定し、余分な枝を切り取って実を結ぶ枝だけにされる。剪定される時には、痛みを覚える。これは、私達クリスチャンにとっては、訓練を意味し、具体的には、苦難や試練という形で訪れる。



人生に苦難や試練が訪れる時、今まで気が付かないうちに、主イエス以上に頼っていた事柄や大切にしていた事柄が取り扱われる。試練の時、お金や名誉、仕事、家族、その他、どんなに大切に、普段頼りにしているものであっても、それらは神のように頼る事ができない事を知らされる。そのような時、私達は、今まで以上に真剣に聖書の御言葉を探し求め、聖書の約束を握ってひたすらに祈るようになる。そのような事を通して与えられた御言葉や、祈りの答えは、生涯にわたり人生の不動の礎となる。

又、苦難や、試練を通して、自分の弱さを知らされる時に、より深く他者を思いやり、隣人を愛し、より人々の魂にふれる御言葉を語る事ができるようになる。

時に私達が、苦難や試練の中を通らされるのは、より多くの実を結ぶ為に、私達の信仰が深められ、品性が整えられる剪定の機会である事を私達は心に刻もう。

【適応①】 試練の時こそ、私達はより主と結びつく。

【適応②】 様々な試練は、私達がより多くの実(愛、祈り、救い)を結ぶ者になる為の恵みの機会だと受け止めよう。

メモ
